

〔2007-JAのご案内〕

●▲北いぶき

DISCLOSURE

2007



地域に貢献し、地域と共に歩む

北いぶき農業協同組合



ごあいさつ

ＪＡ北いぶきも平成１５年２月の合併後４年が経過し、この間組合員はもとより、３町行政を始め関係機関並びに地域住民の皆様には多くのご支援ご協力を賜りましたことにつきまして、衷心より厚くお礼を申し上げます次第であります。

今日の農業と農村を取り巻く環境は、ＷＴＯ・ＦＴＡ等の国際的農業交渉などに加えて、品目横断的経営安定対策を始め、農地・水・環境保全向上対策の導入、また農業団体が主体となった新たな需給調整システムに移行するなど、重要課題が相次ぎ大きな転換期を迎えております。さらに、北いぶきの基幹をなす稲作においては価格の低迷など、地域経済や農家経済に与える影響はかつてない事態を余儀なくされております。

このような環境下、組合員の期待と負託に応え、組合員と地域の信頼に応えるＪＡ経営の展開をはかるため、「組織基盤の強化と地域密着化」「地域農業の拠点として農家経済の安定・向上に向けた営農・販売・購買事業の更なる強化」「経営健全化対策の強化と経営の信頼性確保」を取り組みの基本におき、策定後２年目となる「第２次地域農業振興計画」「第２次農協中期経営計画」の実践に取り組み、地域住民の皆様により信頼され、魅力あるＪＡ事業の展開を進めて参ります。

ここに、平成１８年度（第４事業年度）の決算状況及び主要事業内容の報告を申し上げますので、ご高覧をいただきますとともに、今後とも変わらぬご愛顧とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成１９年５月

北いぶき農業協同組合

代表理事組合長 大西章允

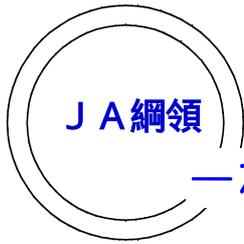
本冊子は、農業協同組合法第５４条の３に基づいて作成したディスクロージャー資料です。

このディスクロージャー資料は、金融事業を営むＪＡ北いぶきの経営方針や、財務内容などの情報を開示し、この組合をご利用される皆様方の厳しい目のもとに、ＪＡが自ら率先して自己規制を図り、経営の健全性を確保することを目的といたしております。

ＪＡ北いぶきは、協同組合組織の原点である相互扶助の精神で、地域の皆様に最大限の奉仕と貢献をするために、皆様の声に常に耳を傾けて、皆様に選ばれ安心してご利用いただける金融機関を目指して努力してまいります。

目 次

J A 北いぶきの基本理念	1
. 組織・機構	2
1 . 組合員数	2
2 . 役 員	2
3 . 機 構	3
4 . 職 員	3
5 . 地 区	4
6 . 本所・事業本部及び支所	4
7 . 組合員組織の概要	4
8 . 平成18年度の主な行事とできごと	5
. 平成18年度事業概要のご報告	8
. 業績	10
1 . 最近5年間の主要な経営指標	10
2 . 平成17年度貸借対照表	11
3 . 貸借対照表注記事項	13
4 . 平成17年度損益計算書	17
5 . 損益計算書注記事項	20
6 . 平成18年度貸借対照表	21
7 . 注記表	23
8 . 平成18年度損益計算書	28
9 . 平成17年度剰余金処分計算書	31
10 . 平成18年度剰余金処分計算書	31
11 . 出資金	32
12 . 自己資本の充実の状況	33
. 信用事業	34
1 . 貸出運営の考え方	34
2 . J Aバンクシステムについて	34
3 . リスク管理体制	34
4 . 法令遵守の体制	35
5 . 直近2事業年度における事業の状況を示す指標	36
1) 主要な業務の状況を示す指標	36
2) 貯金に関する指標	37
3) 貸付金等に関する指標	38
6 . リスク管理債権残高	40
7 . 金融再生法に基づく開示債券残高	41
8 . 有価証券に関する指標	41
9 . 有価証券等の時価情報	42
10 . 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	43
11 . 貸出金の償却額	43
. その他の事業	43
1 . 共済事業	43
2 . 営農指導事業	44
3 . 販売事業	45
4 . 購買事業（機会銀行含む）	46
その他の事業のご報告	47
金融商品の勧誘方針	48
信用・共済事業のご報告	49
沿 革	53



—わたしたちJAのめざすもの—

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。

そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。

さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ります。

環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築きます。

JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現します。

自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めます。

協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求します。

北いぶき農業協同組合の基本理念

恵まれた環境と生産基盤を生かし、夢あふれる地域農業を振興します。

農と人が連携・調和し、創造豊かな共生する地域社会づくりに貢献します。

地域社会に貢献し、信頼されるJA運営を実践します。

・組織・機構

1. 組合員数

(単位：人・戸)

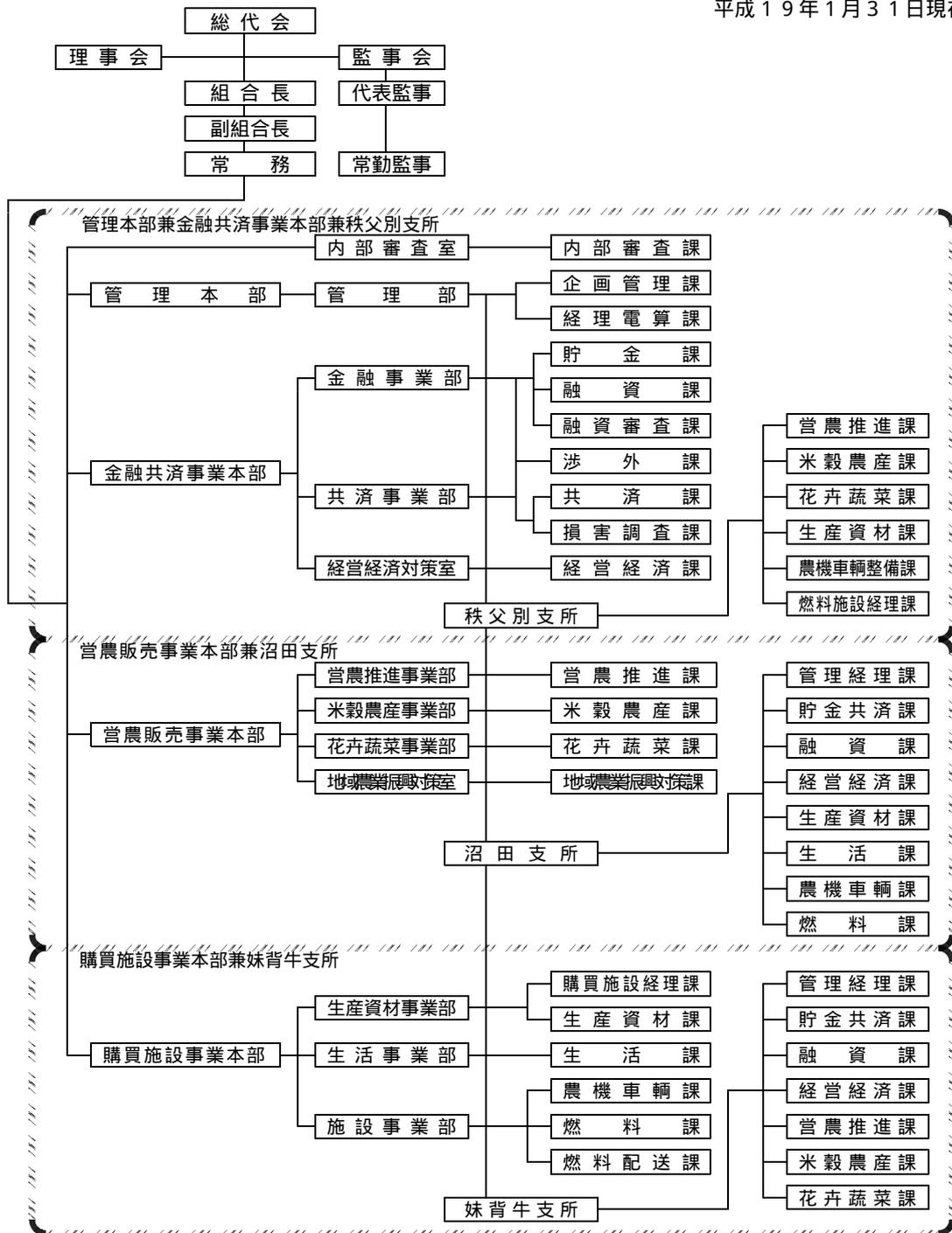
	18年度期首	18年度期末	増 減
正組合員数	1,207	1,181	26
個人	(1,196)	(1,170)	(26)
法人	(11)	(11)	(0)
准組合員数	1,508	1,498	10
個人	(1,409)	(1,404)	(5)
団体	(99)	(94)	(5)
合計	2,715	2,679	36
正組合員戸数	925	904	21

2. 役員 (平成19年1月31日現在)

代表理事組合長	岡	田	静	夫
代表理事副組合長	大	西	章	允
代表理事副組合長	中	易		猛
常務理事 (信用事業担当)	篠	原	政	一
常務理事	林		敏	夫
理事	渡	会	寿	男
理事	山	森		武
理事	野	上		哲
理事	西	山	正	昭
理事	笹	尾		実
理事	加	藤	昇	市
理事	中	西	輝	行
理事	速	見	章	一
理事	谷	田		剛
理事	石	田	隆	広
理事	中	沢	弘	幸
理事	大	西	純	一
代表監事	関	口	正	利
監事	吉	田	光	博
監事	植	木	和	美
常勤監事	和	田	秀	雄
外監事	新	木		貢

3. 機 構

平成19年1月31日現在



4. 職 員

(単位:人)

区 分	18年度期首	18年度期末	増 減
男子職員	118	115	3
女子職員	49	43	6
準職員	42	38	4
合計職員数	209	196	13

(準職員は通年雇用者のみ)

5. 地 区

北海道雨竜郡妹背牛町一円、秩父別町一円、沼田町一円

6. 本所・事業本部及び支所

本支所・事業本部	所 在 地	電話番号	FAX 番号
本 所	雨竜郡秩父別町 1298 番地の 8	0164-33-2011	0164-33-3311
金融共済事業本部	雨竜郡秩父別町 1298 番地の 8	0164-33-2011	0164-33-3381
妹 背 牛 支 所	雨竜郡妹背牛町字妹背牛 382 番地	0164-32-2451	0164-32-2189
購買施設事業本部	雨竜郡妹背牛町字妹背牛 382 番地	0164-32-3567	0164-32-2612
沼 田 支 所	雨竜郡沼田町北 1 条 4 丁目 2 番 2 号	0164-35-2221	0164-35-2331
営農販売事業本部	雨竜郡沼田町北 1 条 4 丁目 2 番 2 号	0164-35-2225	0164-35-2598

キャッシュサービス：ATM（現金自動預入支払機）

店 名	所 在 地	ご 利 用 時 間		
		平 日	土 曜 日	日 曜 日
本 所	秩父別町 2 条 1 丁目	8:30 ~ 18:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00
秩父別町役場	秩父別町 2 条 2 丁目	9:30 ~ 17:00	休	休
妹 背 牛 支 所	妹背牛町字妹背牛 382 番地	8:30 ~ 18:00	9:00 ~ 17:00	休
沼 田 支 所	沼田町北 1 条 4 丁目 2 番 2 号	8:30 ~ 18:00	9:00 ~ 17:00	休

7. 組合員組織の概要

（主なるもの）

組 織 名	代 表 者 名	構 成 員 数
北いぶき農業協同組合青年部	平 田 久 司	1 1 6 名
北いぶき農業協同組合女性部連絡協議会	森 嶋 律 子	3 3 8 名
北いぶき農業協同組合女性部妹背牛支部	森 嶋 律 子	1 7 9 名
北いぶき農業協同組合女性部秩父別支部	松 本 由美子	7 6 名
北いぶき農業協同組合女性部沼田支部	谷 本 眞 弓	8 3 名
妹背牛支所フレッシュミズ	山 下 千 枝	2 0 名
秩父別支所フレッシュミセスの会	川 上 直 子	1 0 名
沼田支所フレッシュミズ	中 西 めぐみ	2 0 名
妹背牛支所さちほ会	西 野 武 明	6 0 名
沼田支所百社会	生 沼 昌 一	1 8 3 名
沼田支所寿会	吉 川 ヨシ子	2 0 名

8 . 平成 1 8 年度の主な行事とできごと

2 月

平成 1 8 年度事業収支計画常勤審議
役員協議会
第 1 回監事会・資産査定監査
全国監査機構期末監査



3 月

春期営農懇談会
役員協議会・第 1 回理事会
期末決算監査
監事協議会
企画会議
第 2 回理事会
地区別・農事組合別懇談会



4 月

人事異動辞令交付
第 2 回監事会
新採用職員教育研修
企画会議
第 3 回理事会
第 3 回通常総代会
青空教室



5 月

田植え体験ツアー in ちっぶべつ (秩父別)
コープさっぽろ田植え体験交流会 (妹背牛)
長期共済一斉推進
第 4 回理事会
第 3 回監事会
随時監査



6 月

第4回監事会
経営経済対策委員会
支所別随時監査
各連合会総会
第5回理事会
全体農事組合長会議
新規就農者激励会
空知管内JA野球大会
WTO農業交渉対策全国代表者集会（東京）
JA北いぶきクリーン米生産協議会設立
青空教室



7 月

経営経済対策委員会
役員協議会
管内監事協議会中・北ブロック合同研修会
コープさっぽろ農作業体験交流会（妹背牛）
親子農業体験交流会（沼田）
第5回監事会
企画会議
第6回理事会
JA北信連と北いぶき・沼田町社会福祉協議会
へ車椅子寄贈
上半期決算棚卸



8 月

下半期経営収支計画常勤審議
役員協議会
第7回理事会
管内監事協議会夏期研修
上半期決算監査
とんでん祭り（秩父別）
夜高あんどん祭り（沼田）
監事協議会



9 月

役員協議会
北育ち元気マラソン大会
稲刈り体験ツアー秩父別
コープさっぽろ稲刈りツアー
第6回監事会・CE随時監査
第8回理事会
平成19年度採用職員（高卒）統一筆記試験
青空教室



10月

第7回監事会
第24回JA全国大会
企画会議
第9回理事会



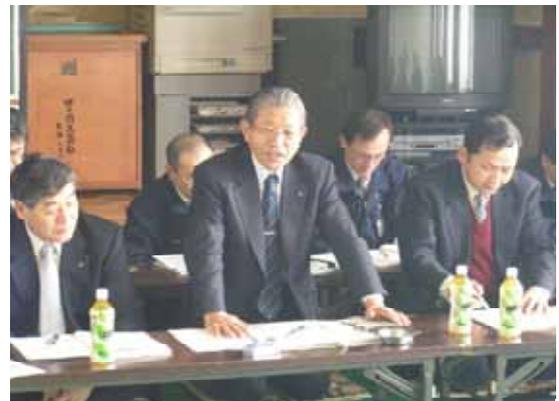
11月

第8回監事会
支所別随時監査
第25回JA北海道大会
企画会議
第10回理事会
全国監査機構期中監査
全体農事組合長会議



12月

役員協議会
地区別・農事組合別懇談会
随時監査（営農販売事業本部）
第9回監事会
第11回理事会
全体農事組合長会議



1月

始業祭・安全祈願祭・新年交礼会
蔵開き
全体農事組合長会議
役員選任代表者会議
役員報酬審議会
役員選任推薦会議
管内冬期監事研修会
企画会議
第12回理事会
第10回監事会
退職職員送別会
管内日豪EPA・FTA交渉シンポジウム
全道日豪EPA・FTA交渉シンポジウム
期末棚卸実査



．平成18年度事業概要のご報告

農業・農村・農協を取り巻く環境が、大きな転換期を余儀なくされる中で、国内的には「食」の安全性を始め、19年度から予定される担い手農家に支援を集中する「品目横断的な経営安定対策」、農村の資源保全を後押しする「農地・水・環境保全対策」など新しい農政への転換、また生産者団体が主体となる「米の需給調整システム」への移行など、その実践と受け皿づくりを最重点課題にかかげ、組合員の皆様はもとより町行政等関係機関団体と一体となり、地域ぐるみで検証・検討を進めてきたところでもあります。これら一連の実践的な検証と検討に当りましては、制度的な仕組みと生産現場との乖離など難しい一面もありましたが、これまでの継続的な取り組みから将来的な展望に立った地域農業のシミュレーションとして多くの課題や問題点を整理するなど相応の成果を挙げて参りました。

また、国際的には世界貿易機関（WTO）の交渉など内外を取り巻く環境は、どれ一つとっても目を離せない重要課題が山積した一年であったと思います。

特に、WTO農業交渉につきましては、本来であれば昨年中に保護削減の基準であるモダリティーの確立をみるところでありましたが、多くの国の利害が一致せず、その交渉は越年を余儀なくされております。これは世界一といわれる輸入大国である日本の主張を毅然とした態度で訴えて行かなければならない最大の課題でもあります。

この様な中で、昨年を顧みますと自然を相手とする農業は天候に大きく左右されるだけに、6月までは低温や遅霜に見舞われるなど、米を始め作物全般にわたり平年作どころか、大変な年になるのでないかと心配してきたところでもあります。幸いにも7月中下旬からの好天気により、一部の作物につきましては少雨による影響を受けましたが、総じて豊穰の秋を迎えることができました。北いぶき管内の中心をなす水稲につきましては、全道105の作況指数には及ばなかったものの全国96を大きく上回る104となり、質的には特に高い評価を受けているところでもあります。

生産現場の取り組みとしましては、17年度から有人ヘリによる水稲病害虫防除事業から撤退し、農薬節減米を中心に北海道米の主産地形成をいっそうはかってきたところであり、道内外の“北いぶき産米”の評価は高く、これまで以上に固定需要（産地指定）を確保することができましたことは、ひとえに組合員の皆様の生産努力の賜ものであり、また町行政や農業改良普及センターなど関係機関団体と一体的に取り組んできた成果でもあります。

しかし、今日の米を取り巻く情勢は、価格的には市場原理に委ねられた中で価格が低迷し、また毎年10万トンを超える消費の減少を余儀なくされております。この様な中で昨年11月に19年度の都道府県別生産目標数量が示され、北海道米の生産努力と実績が評価され18年度を上回る目標数量が配分されましたが、心から素直に喜べない状況にあり、なんとしても18年産北海道米の販売に当っては、組合員の生産努力が価格に反映される様期待を寄せるものであります。

水稲のみならず、消費者や実需者から信頼される農畜産物の生産に当りましては、全品目の継続的な生産履歴記帳運動はもとより、適正な農薬の使用・異品種及び異物混入の未然防止など、組合員の皆様とともに細心の注意を払って取り組んで参りました。特に事故的なト

ラブルやクレームもなく、現在18年産農畜産物の販売に全力を傾注しているところであります。

以上の様な経過にもとづき、販売支払高は前年度を5億5945万円上回る95億8858万円の実績をあげることができました。また産地づくり交付金や稲作所得基盤確保などの関連対策（拠出金等相殺）を含めると106億1876万円を達成する内容になりました。

また、本年度は農業関係機関団体の事業展開に伴う大口的な貯金減少と新規貸出しがありました。今日の米価低迷など厳しい農家経済にもかかわらず、組合員皆様の動向は、下期計画の見直しを上回る資金歩留まりとなりましたことに対しまして、衷心より敬意と感謝の意を表する次第であります。

農協事業全般では、前年度に比較して共済・販売・購買5部門の落ち込みが大きく、これが事業管理費の削減等でカバーする内容となり、最終的な当期剰余金（税引後）は1億5313万円となりましたが、別途米施設積立金を除くと実質1億2280万円となり、ほぼ前年並みの実績を挙げることができました。

この様な事業決算にもとづき利益準備金3500万円・税効果積立金3300万円、合わせて6800万円の内部留保をはかるとともに、組合員に対します事業分量配当金としまして出資配当を含め7964万円を実施致したくご提案を申し上げる次第であります。

今日の農業・農村・農協を取り巻く環境が厳しい中で相応の事業成績を挙げることは、組合員の皆様を始め准組合員など、地域住民の皆様の農協事業への結集による“協同の力”によるものであり、衷心より敬意と感謝の意を表し18年度事業の概況報告とする次第であります。

業績

1. 最近5年間の主要な経営指標

(単位：千円、人、%)

	年度	15年度	16年度	17年度	18年度
経常収益		1,890,938	1,877,343	1,829,612	1,829,026
信用事業収益		404,512	413,738	390,092	408,296
共済事業収益		298,884	290,107	276,493	258,842
購買事業収益		702,699	670,348	636,494	575,065
販売事業収益		259,948	324,093	334,918	320,628
その他の収益					
農業関連事業収益		210,170	172,494	186,169	260,829
その他事業収益		14,725	6,563	5,446	5,366
経常利益		183,082	227,881	162,597	221,533
当期剰余金(注)		170,846	177,115	159,044	153,131
出資金		2,327,467	2,261,041	2,211,951	2,137,083
出資口数		4,654,934	4,522,083	4,423,903	4,274,166
純資産額		5,411,211	5,415,300	5,408,820	5,411,013
総資産額		55,805,153	56,274,918	55,373,651	53,357,391
貯金等残高		46,322,476	46,838,934	46,013,396	44,096,881
貸付金残高		7,329,557	8,313,658	8,361,465	9,025,864
有価証券残高		0	0	0	0
剰余金配当金額		106,608	116,494	73,989	79,639
出資配当の額		6,815	6,696	6,561	6,451
事業利用分量配当の額		99,793	109,798	67,428	73,188
職員数		203人	206人	209人	196人
単体自己資本比率		29.33%	28.13%	28.13%	28.16%

本組合は平成15年2月1日、旧妹背牛町農業協同組合・旧秩父別農業協同組合・旧沼田町農業協同組合が合併し設立のため、平成14年度以前の指標は略する。

2. 平成17年度 貸借対照表 (平成18年1月31日現在)

(単位：円)

資 産 の 部			
科 目	金 額		額
1. 信用事業資産			49,085,842,411
(1) 現 金		275,485,858	
(2) 預 金		39,818,139,961	
(系 統 預 金)	(39,764,000,000)		
(系 統 外 預 金)	(54,139,961)		
(3) 有価証券		0	
(4) 貸 出 金		8,361,464,851	
(5) 組勘未決済勘定		230,815,628	
(6) 信用雑資産		288,583,370	
(うち未収収益)	(287,950,005)		
(うちその他雑資産)	(633,365)		
(7) 債務保証見返		139,259,400	
(8) 貸倒引当金(控除)		27,906,657	
2. 共済事業資産			102,852
(1) 共済貸付金		102,562	
(2) 未収共済貸付金利息		290	
(3) 貸倒引当金(控除)		0	
3. 経済事業資産			1,661,320,515
(1) 経済事業債権		1,131,924,760	
(うち受託販売債権)	(871,646,180)		
(うち受取手形)	(11,797,615)		
(うち経済事業未収金)	(230,553,840)		
(うちその他経済事業資産)	(17,927,125)		
(2) その他事業債権		3,620,360	
(3) 棚卸資産		531,681,638	
(4) 特別会計借勘定		0	
(5) 貸倒引当金(控除)		5,906,243	
4. その他資産			761,395,994
(1) 雑 資 産		151,872,242	
(2) 経過資産		425,372,557	
(3) 繰延税金資産		184,358,967	
(4) 貸倒引当金(控除)		207,772	
5. 固定資産			2,372,589,771
(1) 有形固定資産		7,149,242,313	
(2) 減価償却累計額(控除)		4,778,904,410	
(3) 無形固定資産		2,251,868	
6. 外部出資			1,631,658,500
(1) 外部出資		1,631,658,500	
(2) 未払込外部出資		0	
(3) 外部出資等損失引当金(控除)		0	
6. 繰延資産			0
資 産 の 部 合 計			55,512,910,043

負債・資本の部			
科目	金額		
(負債の部)			
1 . 信用事業負債			47,887,047,660
(1) 貯 金		46,013,396,464	
(2) 借 入 金		1,574,479,545	
(3) 信用雑負債		159,912,251	
(うち未払費用)	(63,118,823)		
(うちその他雑負債)	(96,793,428)		
(4) 債務保証		139,259,400	
2 . 共済事業負債			193,315,045
(1) 共済借入金		102,562	
(2) 共済資金		33,087,409	
(3) 未経過共済付加収入		160,124,784	
(4) 未払共済借入金利息		290	
3 . 経済事業負債			1,340,251,383
(1) 経済事業債務		1,245,888,433	
(うち受託販売債務)	(0)		
(うち支払手形)	(0)		
(うち経済事業未払金)	(537,313,756)		
(うちその他経済事業負債)	(708,574,677)		
(2) その他事業債務		268,290	
(3) 経済事業借入金		0	
(4) 特別会計貸勘定		94,094,660	
4 . その他負債			683,476,248
(1) 雑 負 債		71,607,561	
(2) 経 過 負 債		11,240,210	
(3) 諸 引 当 金		600,628,477	
(うち退職給付引当金)	(567,443,177)		
(うち役員退任慰労引当金)	(33,185,300)		
負債の部合計			50,104,090,336
(資本の部)			
1 . 出 資 金			2,211,951,500
2 . 未払込出資金			0
3 . 回転出資金			0
4 . 法定準備金			1,807,960,000
(1) 資本準備金		0	
(2) 利益準備金		1,807,960,000	
5 . 剰 余 金			1,388,768,623
(1) 任意積立金		0	
特別積立金		1,200,499,065	
(うち目的積立金)	(828,799,065)		
(2) 当期末処分剰余金		188,269,558	
(うち当期剰余金)	(159,043,739)		
6 . 株式等評価差額金			139,584
資本の部合計			5,408,819,707
負債・資本の部合計			55,512,910,043